

## 本当のボランティアというものを知って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 竹内 義師  
活動先：愛光園知多地域障害者生活支援センター らいふ  
ゼミ：松下 典子 先生

私は今までの人生で他人を支援するボランティア活動は一度も経験したことがなかった。ましてや私自身もボランティア活動自体に好印象を持っていなかった。しかし私自身、初めからボランティア活動に否定的であったわけではない。ある出来事を境にそう思うようになったのである。私は中学生だった時に最寄りの駅や学校付近を清掃するボランティアに参加した経験がある。その当時はただ学校の行事の一環として無理やり参加させられていたので私自身も「どうしてこんな面倒なことをやらなければならないんだ。」と内心はすごく嫌だったことを今でも覚えている。他の連中は「このボランティアに対してどう思っているのだろうか」と疑問に思ったので、ボランティア活動が終了した時尋ねてみたが思いもやらない答えが返ってきた。私が尋ねた友達は生徒会の役員であり、このボランティア自体を運営している側の人間であったのにもかかわらず普通では考えられない返答をしてきたことを今でも覚えている。彼は高校の推薦入試を狙っており、ボランティア活動の経験をしておけば学校の推薦枠にも選出されやすくなり「推薦入試の際に有利になるから参加しているだけだ」と言っていたのである。ボランティア活動をしている時は一生懸命生徒たちの指揮をとり自分も率先して活動していたのにもかかわらずこんな返答が返ってくるとは予想外であった。私の周りにも彼と同じような考えを理由にボランティアに参加している人たちがいると思ったらすごく嫌になり、私はそれ以降ボランティアに参加しなくなったのである。この出来事がきっかけで私のボランティア活動に対する印象は否定的なものになったと思われる。であるからして私はこの大学に入学してからもボランティア活動を主な活動とするサークルには断固として所属しないと決心しており、極力ボランティアとは無縁な講義を受講するようにしていた。しかし、大学 2 年生のゼミ選択を誤ってしまいボランティア活動ととても縁があるゼミに所属することになってしまった。あげくのはてにはこのコースではサービスマンという 6 日間ボランティア活動実施しなければならないことが義務づけられていたのである。私の確認不足が原因であったのでなんとも言えないがまさかこんなゼミ活動があったとは思ってもよらなかった。ゼミ活動が始まってからはゼミメンバーのほとんどの人達がこのサービスマンというボランティア活動に熱心に打ち込む姿勢でいることを知り、自分一人だけが取り残されているように感じられた。ゼミの人達のそんな姿勢を見ていたらいつしか私自身もボランティアに対する考え方が少し変わってきた。私は彼らが自分達の利益のためにボランティア活動に打ち込んでいるわけではなく、誰かの助けになりたいと本気で思っているからこそ熱心に活動に取り組んでいたことを知ったからである。これを機会に私のボランティア活動に対する考え方、印象は徐々に変わってきたと思える。

最初の前文でも述べているが、私は今までの人生で他人を支援するボランティア活動は一度も経験したことがなかったので正直今回の活動に関してはとても不安であった。私が

サービスマーケティングの活動先としてお世話になる施設は自閉症を伴う障害児の方々を日中一時支援する活動を主に行う施設であった。高齢者の方々の支援等のボランティア活動ならまだしもよりによって自閉症を伴う障害を持っている子どもたちの支援とは思ってもいなかった。高齢者の方々ならコミュニケーションなどの意思疎通が可能であるため何を考えているのか理解できるのだが、自閉症を伴う障害児はコミュニケーションを図ることが困難であるため何を考えているのか理解することもできないし、こちら側もどうやって意思を伝えたらよいか分からなかったので支援を行うことに対してとても不安であった。サービスマーケティングの事前活動として活動先に行く前段階に担当者の方との顔合わせの機会を得られたが、利用者に対しての様々な注意事項等があることを聞かされ益々不安になった。その時に言われたことは利用者によって使ってはいけない禁止語が存在することや利用者によっては車椅子を使用している方もいるとの内容であった。利用者に意思を伝えることが困難であるのにもかかわらず、使ってはいけない言葉があるということを知った。私は活動中に思わず口を滑らしてしまうのではないかと心底不安になったが、事前活動を体験してからはそんな不安も解消されたようであった。

事前活動で初めて活動先に訪れた際は施設の位置に驚いた。施設の周りには平然と住宅が建ち並んでおり施設自体がアパートを改修したものであったのだ。事前活動では少しの時間であったが利用者の方の支援を行う機会も頂いた。その際、私は何をしてあげたら利用者の方が満足していただけるかただ考えているだけで何もできずにいたが、施設スタッフの方が声を掛けてくださり手とり足とり教えていただいたことによって、やっと利用者の笑顔を見ることができたのである。利用者の笑顔を見たことでほっとしたのか内心にあった不安もいつのまにか消え失せており“あつという間”に事前活動を終えることとなった。事前活動では支援に対する不安の解消が収穫できたと思える。

活動に向けて準備も完了しサービスマーケティングを実施するようになってからは様々な事を学べたと断言できる。活動で体験したことやいろいろな場面や見るもの全てが私にとってどれも新鮮なものばかりであったと思える。私が活動で一番驚いたことは利用者の方々の自立度の高さである。この施設では将来様々な仕事をするための基礎スキルを身につける自立課題というものがある。課題は利用者個人によって異なっておりそれを終えることによって達成感を感じることができ自信を持つことができるように促されている。この作業を横から眺めている際に障害を持っている人達も社会で職を持ち活躍できる機会を持つということを学んだ。しかし、活動を通して障害者の理解がまだまだ社会には浸透していないということも実感できた。

今回のサービスマーケティング活動を通して、私はボランティアに対して本気で打ち込んでいる人達がいること、障害を持つ人達も社会で活躍できる機会を得ることが可能であること、そしてチャレンジしてみなければ分からない事もあるということを知った。世の中には自分だけのことしか考えていない人達もいれば他人の事を常に思っている人達もいる。本気で誰かの助けになりたいと思っている人達もいるということを知り、汚い世の中にもまんざらきれいなものがあるということを知り得て、私もそんな人達がいるということを知り、自分にも重ねつつ、彼らのような思いを忘れずに共に学び生きて行こうと思う。